

一年を迎えた 鶴の湯温泉

昨年8月にオープンした鶴の湯温泉がリニューアルオープンから一年を迎えました。

老朽化などの理由で一時存続が危ぶまれた鶴の湯温泉ですが、継続先として三友プラントグループ「早来工場」が再建を行ないました。

町の財産として、歴史を持ち・知名度もある施設を改めて紹介します。



鶴の湯温泉とは

・歴史的、知名度のある温泉

明治4年の陰暦2月、病鶴が沢池に入浴し病気が治つて来なくなった(早来町史より)と記述が残っています。



四季を感じることできる

庭園

桜やハスの花が季節によって咲き、色々な表情を魅せる庭も見所です。

・自社農園で栽培する果物の販売

5月ころから「さくらんぼ」や「ぶどう」が直売されています。

高級品種を育て滅多に市場には出回らない隠れた特産品の提供はリニューアルされてからの産物です。

鶴の湯温泉のいま

開業時には予想を超えるお客さんが訪れて混雑しましたが、現在はゆったりと利用できる状況になっています。

開業後、少し遅れて完成した宴会場や送迎バスの配置など、庭の手入れも順次進められ、完成した見晴台も温泉利用以外に楽しんでもらうための設備を充実させています。

開業1周年の鶴の湯温泉

昨年9月に就任した水谷辰弥支配人より鶴の湯温泉について「いま」をお話しいただきました。

鶴の湯温泉の魅力は「お湯」

「本当に通い続けて体の痛みがとれた、治った」と言ってくれるお客さんはいます。反面サウナが無い。露天風呂が無い。と残念がるお客さんも少なくないようですが、「源泉100%の提供を続けるには、今の浴槽規模が限界で、その代わりとは言えないですが昔からの源泉を守ることにこだわって頑張っている」そうです。

温泉利用だけでなく庭園も

以前と違う野外入口での入場料の徴収には、不満の意見をもらっていると言います。

今の時期、「ハスの花を見るためだけに訪れる方には不評で…」と対応に苦慮している様子ですが、「庭をきちんと魅せるために選んだ方法」という説明では伝わりにくく、「心無い人の行為を防ぐため、責任を持って庭園の環境保全に務めたい意思を理解していただきたい。」と意見の改善は検討しつつ、施設の管理をスタッフ一同で頑張っているそうです。



「もっと地域の方に気軽に利用していただきたい。」と身近な方へのPRも含め、利用者の増加を考えている支配人にとっては、これからが本場のスタートになるようです。

ゴルフの環境に絶賛

プロゴルフアー石川遼さんらを育て、杉並学院ゴルフ部監督をしていた吉岡徹治氏による夏期ジュニアキャンプが8月7日から1週間、鶴の湯温泉に滞在し実施されました。例年プロゴルフアーの卵たちを集めて茨城県で実施している夏期キャンプは、震災の影響から、今年初めて北海道で開催。「環境の良いところ」が条件で紹介されたのが鶴の湯温泉と練習場の北海道クラシックカントリークラブだったそうです。

「施設協力、練習場(コース)の環境、食事、疲れを癒す温泉の良さ、アクセスとゴルフを行なう環境には期待以上の評価になった」と最後に感想をいただきました。

